

つばさだより 11月号

港区適応指導教室

<つばさ教室>

平成 25 年 11 月 5 日発行

港区東麻布 2-1-1 電話：3589-2071

HPアドレス：http://www1.r3.rosenet.jp/tsubasa/

つばさ教室での支援

つばさ教室では、様々な事情で学校へ通うことが困難になっている子供たちが通ってきています。とても感受性が豊かで神経が細やかな面が多く見られるなど、子供によって一人一人の抱えている悩みはそれぞれです。

また、日々の基本的な生活習慣に遠因が見受けられる場合もあります。特に昼夜逆転の生活がなかなか治らないケースでは、毎朝学校に通うことは難しいでしょう。大人の場合でも、ネット依存症とみられる人たちのことが心配される昨今です。どの子供にとっても、毎日の生活リズムを整えることは重要な課題であり、不安定になったリズムは一朝一夕には改善できません。つばさ教室への登室を含め、まずは毎朝の早起きと朝食摂取の習慣の確立から、生活改善が望まれるところです。

登室している子供たちが、子供相互でのコミュニケーションを積み重ねることも、極めて大切な学習です。つばさ教室には学年の仕切りがありません。原籍校、学年、登室・退室時刻は各々異なりますが、交流活動に取り組んでいます。現在は小学校から中学校3年生までが一つの学習室で勉強しています。学級集団の中でコミュニケーションスキルを学ぶ時間が得にくい子供たちには、つばさ教室の中で学んでほしいと願っています。

基本的な生活習慣、学習面、コミュニケーション力、そして複合的な課題。子供によって重点的に取り組むべきポイントは異なりますが、一人一人の子供たちに寄り添う姿勢を大切にして、適切に支援したいと考えています。

ある日のつばさ教室

「おはようございます」正門のインターホンから第一登室者の声が響きます。「今日も9時前に着きました。」子供たちは、スタッフルームに挨拶に



来て、登室時刻をタイムカードに記録します。早起きの習慣が確立している子供たちは継続できるよう見守っています。逆に、お昼頃、細々とした声で「こんにちは・・・。」と登室したときは、「おや、もうお昼だよ。もう少しがんばって早起きしようね。」と、やんわりと生活リズムの改善を促します。

「私、今日は算数と漢字練習をやります。」「私は定期テストが近いので英語にします。」つばさ教室では、小・中学生ともに、個別学習が中心です。各自でその日の学習予定を決め、用意してきた課題に取り組みます。「えーと、私はどうしようかな・・・。」その日の学習の進め方に迷っている子供には指導員が助言し、見通しを立てさせ、できる限り主体的に学習に取り組めるように導いています。

「先生、昼食の机、準備できました。」つばさ教室に、給食はありません。12時になると子供がテーブルをきれいにし、各自で持ち寄ったお弁当を広げ、子供たちと指導員と一緒にいただきます。「あれ、野菜も好き嫌いなく食べないとね。」学校と違って同じメニューでの食育指導はできませんが、少人数の会食の場で指導員が声かけに努めています。

毎週水曜日の午後は体育活動を行うようにしています。つばさ教室の子供たちはどうしても運動不足になりがちです。「先生、バドミントンの前にビーチバレーボールをやりませんか。それともドッジビーにしますか。」お借りしている施設や、人数の都合で種目は限られますが、運動を通して子供たちは笑顔で汗を流しています。



最終退室は午後4時。「明日も待っているよ、さようなら。」登室が継続することを願って、一人一人を見送りつつ一日が終わります。

==== 11月の行事予定 ====

- ◆芋掘り 11月5日(火)に実施します。
- ◆体育活動 11月6日、13日、27日の水曜日は赤羽小学校、12日(火)は港区役所にて行います。
- ◆遠足 11月14日(木)に多摩動物公園に行きます。
- ◆施設訪問 11月26日(火)中央区適応指導教室の先生方が見学にきます。